

【耐震診断結果一覧表】

○国道163号線

No.	建築物の名称	建築物の位置	建築物の主たる用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上必要な部分の地震に対する安全性の評価の結果	耐震改修等の予定		備考
						内容	実施時期	
1	大橋ビル	門真市深田町940番4	作業場・倉庫	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨造建築物の耐震診断指針」(2011年版)	$I_s=0.10$ 、 $q=0.40$	-	-	
2	新栄門真コーポ	門真市深田町942番2	事務所付共同住宅	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	$I_s/I_{so}=0.05$ 、 $C_{tu} \cdot SD=0.14$	-	-	
3	藤田ビル	門真市上野口町561番2	共同住宅・事務所	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	$I_s/I_{so}=0.70$ 、 $C_{tu} \cdot SD=0.56$	-	-	

【附表 耐震診断の評価の結果と構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価】

耐震診断の方法の名称	構造耐力上必要な部分の地震に対する安全性		
	I	II	III
一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨造建築物の耐震診断指針」(2011年版)	$I_s < 0.3$ 又は $q < 0.5$	左右以外の場合	$0.6 \leq I_s$ かつ $1.0 \leq q$
一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」(2001年版)	$I_s/I_{so} < 0.5$ 又は $C_{tu} \cdot SD < 0.15 \cdot Z \cdot G \cdot U$	左右以外の場合	$1.0 \leq I_s/I_{so}$ かつ $0.3 \cdot Z \cdot G \cdot U \leq C_{tu} \cdot SD$

- I. 大規模の地震の振動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が高い。
- II. 大規模の地震の振動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性がある。
- III. 大規模の地震の振動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が低い。

(※)震度6強から7に達する程度の大規模の地震に対する安全性を示す。

いずれの区分に該当する場合であっても、違法に建築されたものや劣化が放置されたものでない限りは、震度5強程度の中規模地震に対しては損傷が生ずるおそれは少なく、倒壊するおそれはない。

記号の解説(構造耐力上必要な部分の地震に対する安全性)

記号	記号の名称	記号の解説
$I_s$	構造耐震指標	構造体の耐震性能を表す指標
$q$	保有水平耐力に係る指標	必要保有水平耐力に対する保有水平耐力の比
$I_{so}$	構造耐震判定指標	想定した地震動レベルに対して建物が所要の耐震性能を安全であるために必要とされる構造耐震指標値
$C_{tu}$	終局時累積強度指標	構造物(層)の終局限界における累積強度指標値
$SD$	形状指標	建物の平面、立面形状または剛性の平面、立面分布を考慮して保有性能基本指標を修正する指標
$Z$	地域指標	地震活動度や地震動強さを考慮するための耐震判定基本指標の補正係数
$G$	地盤指標	地盤、地形、地盤と建物の相互作用を考慮するための耐震判定基本指標の補正係数
$U$	用途指標	建物の用途を考慮するための耐震判定基本指標の補正係数